

令和6年度愛知県海岸漂着物対策推進協議会議事録

1. 開催日時

令和7年3月25日（火）午前10時30分から午前11時30分まで

2. 場 所

愛知県自治センター 6階 602会議室

3. 議 事

（1）海岸漂着物等対策に関する2024年度の実施状況について

資料1-1から資料1-6により海岸漂着物等対策に関する2024年度の実施状況について説明した。

<質疑応答>

【国土交通省中部地方整備局】

資源循環推進課の海岸漂着物等地域対策推進事業について、2024年度の全体事業費は2023年度より多いが、回収処理量は2023年度より少ない。その理由が分かれば教えて欲しい。

【事務局】

国庫補助を受けて市町村に対し補助を行っているが、近年、国からの内示割れが続いている。今年度は追加内示があったことで補助額が増えている面がある。また、市町村の担当者からは、費用増の理由として、人件費の高騰や、ごみ処理手数料の値上げ、ごみを島外に搬出する船代の値上げ等があると伺っている。

2024年度の回収処理量の減少について、回収処理量の半分を占める西尾市の担当者に確認したところ、回収処理量が7、8月に約80t分減っており、その原因として、三河湾付近への強い勢力の台風接近が前年度に比べて少なかったこと、大雨等による影響で山から河川を通じて海に流出する流木・灌木などが少なかったこと、大潮のタイミングで南風が吹くと海岸漂着物が多くなる傾向にあるがそのタイミングが少なかったことなどが推察されたとのことであった。

【青木座長】

海岸漂着物等地域対策推進事業によって、漂着ごみの何パーセントがカバーできていると考えれば良いか。ごく一部しかカバーできていないのか、それとも大部分カバーできているのか。

【事務局】

漂着ごみの全体量を把握できていないため、割合は分からない。この予算は市町村の要望を積み上げて国に要求し、その8割程度が措置されているため、市町村が本来行いたかった回収処理のうち8割程度の量と思われる。市町村の費用負担もあるため、予算的な制約でもっと回収したいができないという面もある。

【蒲郡530運動推進協議会】

蒲郡では現在、竹島やラグーナ辺りを中心にまちづくりが進んでおり、海岸をきれいにしようという動きが出てきている。清掃活動の予算は春日浦中心のため、竹島周

辺を充実していただけるとありがたい。きれいにしすぎるとアサリがとれなくなる問題があるため、どの程度清掃活動に取り組むか難しい。

【事務局】

それぞれの市町村の計画をくみ上げて実施場所を充実していきたい。ごみとして流れ着いたものを片付けるのは大事なことである。

【水産課】

水産の立場で必要としている海の豊かさは、ごみが増えることではなく、栄養素である窒素やリンが増えることである。海岸に漂着しているごみを清掃することは大事であるという点において異論はない。

【青木座長】

ごみゼロ社会推進あいち県民会議はどのような組織で、どのような活動をしているのか。

【事務局】

30 年前からある組織で、市町村や一部事務組合、民間団体等の 112 団体で構成されている。あいちプラスチックごみゼロ宣言を行ったり、年に 1 回、ごみゼロ社会推進あいち県民大会を開催し、レジ袋削減取組優良店の表彰や、タレントを使った啓発などを行っている。

【青木座長】

愛知県海岸漂着物対策推進協議会とごみゼロ社会推進あいち県民会議の関係性はあるのか。

【事務局】

資源循環推進課が事務局となっている。

【青木座長】

資料 1—1 の 4 の岐阜県、三重県及び名古屋市との連携事業の実施について、伊勢湾流域圏広域計画を昨年度策定し、今後どのように取り組もうとしているのか興味があるが、計画に記載のある三県の県民を対象とした交流会は具体的に何をしたのか。

【事務局】

交流会は、(2) 清掃団体との連携・情報発信として記載されている。各県で行われた清掃活動に他県市の職員も参加し、広域計画の説明やパネルの展示などを行った。

【青木座長】

千葉先生も答志島によく行かれており、私も一回行ったが、海を知らない岐阜県の学生は「こんなにゴミが多いのか」と強い印象を持つようである。海に関係しているという意識を持ってもらうための良い取組のため、少しずつ広げていって欲しい。

【青木座長】

岐阜県にも海岸漂着物対策推進協議会はあるのか。

【事務局】

ある。

【青木座長】

岐阜県には海が無いが、どのような人が参加しているのか。

【事務局】

岐阜県海岸漂着物等対策推進協議会には、学識経験者として千葉先生はじめ4名、住民及び民間の代表の方が8名、行政機関として飛騨市や八百津町の方など3名が参加されている。

【青木座長】

愛知県も岐阜県の協議会に入り、委員の交換や合同の会議など仕掛けを作って欲しい。

【事務局】

協議会の連携があると良いため、今後検討する。

【青木座長】

資料1－1の2（3）で、内陸の小学校とは具体的にはどのような学校か。

【事務局】

海を有する蒲郡市においてもなるべく内陸側である蒲郡市立蒲郡北部小学校と、山間部にある岡崎市立秦梨小学校を選んでいる。

【蒲郡530運動推進協議会】

海のこととは山に関係無いという思いが子供心にもあるため、関係しているということを経験していただけてありがたい。

【事務局】

授業を実施したことについて、子供たちも積極的に参加し良い機会であったと先生からも反応をいただいている。山と海が繋がっていることを引き続き啓発していきたい。

【青木座長】

子どもたちに興味を持ってもらうため、万華鏡など楽しさを取り入れることは良いことだが、問題意識を持つような仕掛けづくりをしないといけない。仕掛けづくりの工夫はどうしているのか。

【事務局】

万華鏡や組成分析に使うマイクロプラスチックや、ビンゴゲームに使う海洋ごみは、ビーチコーミングとして実際に自分で実際に拾ってもらうことで、海岸にどういったごみがあるのか感じてもらえるようにしている。また、藤前干潟のごみ問題の映像を見てもらったり、野鳥の観察も行うことで野鳥がごみを食べてしまうなど問題意識を持ってもらえるように実施した。

（2）海岸漂着物等対策に関する2025年度の実施予定について

資料2－1及び資料2－2により海岸漂着物等対策に関する2025年度の実施予定についてについて説明した。

＜質疑応答＞

【青木座長】

マイクロプラスチック調査について、2023年度の河川ごみ実態調査とはやり方が

異なるのか。同じなのか。

【事務局】

2023 年度の調査は、河川敷に溜まっている散乱ごみや粗大ごみを、目視や拾うことで行ったが、来年度についてはマイクロプラスチックに焦点を絞り、環境省の指針に沿った方法で行い、種類や量を調べることに主眼を置いている。

【青木座長】

上流と下流で調査のタイミングを合わせて実施したり、岐阜県などと一緒にやると面白い結果が出るのではないかな。

【事務局】

他県との連携も含め検討したい。

【国土交通省中部地方整備局】

プラスチック削減PR隊について、河川に流れて漂着ごみとなるプラスチックごみの削減をどうやって訴えるのか、よく考えて実施した方が良い。

【事務局】

プラスチック削減PR隊は海岸漂着物だけに着目したものではなく、ごみゼロという広い観点からの事業だが、海ごみ対策に関連するため、2025 年度の実施予定に掲載させていただいている。

【青木座長】

海ごみのためにPR隊を立ち上げるのではなく、海ごみの要素を入れ込んでいくイメージか。

【事務局】

プラスチックごみを減らす目的の事業である。

【青木座長】

このPR隊は既にあるのか。

【事務局】

まだない。来年度委託事業により実施していく。

【資源循環推進監】

資料1－1の災害時の処理対策事業は来年度も継続ということで良かったか。内容が変わる予定はあるか。

【河川課】

災害関連緊急大規模漂着流木等処理対策事業は、災害があった際に国に申請するものであるため不確定であるが、流木等処理負担金は来年度も引き続き予算は確保している。今年度についても南知多で流木等処理負担金の実績がある。

【農地計画課】

災害関連緊急大規模漂着流木等処理対策事業の実績は無く、補助を受けない県単独事業としても漂着ごみの実績はあまりない。事業自体はあるが、来年度についても事務所から特段要望があがってないため制度上は変わらないが実績や予定はない。

【港湾課】

河川課と同様、災害があった場合は2022年度と同様の補助制度はある。港湾において通常時のパトロールを実施しており、異常があった場合は把握し対応している。

【水産課】

水産多面的機能発揮対策事業での海岸漂着物等の回収実績はないが、災害要件に該当する場合に使える。スキームは次年度も残っている。水産多面的機能発揮対策事業は主に、地元の漁業者主体の活動組織が、漁業生産を上げるために干潟の保全などに活用されている事業である。

【青木座長】

せっかく広域でやり始めたので、広域の効果が見えるようにやっていただけると良い。単独の県がそれぞれ足並みを合わせるだけではなく、交流がある方が効果があると思う。